

巻頭言

祝 創立90周年

勝田 啓示

4

特集 1

国府台コンソーシアムを設立

国府台コンソーシアム第1回総会

瀧上 信光

5

講演「国府台文化懇話会について」

原田 嘉中

8

特集 2

夢ある未来への羽ばたき——平成29年度学部学位記授与式より

希望に満ちた光の中で——平成30年度学部入学式より

坂本 周男

11

特集 3

千葉商科大学創立90周年に向けて(第6回)  
千葉商科大学での学びを今も大切にして  
創立90周年記念イベント一覽

CUCの移り変わり

須田 将司

46

私は、やってみた。学生生活での無限の可能性

変わった大学

須田 将司

46

考えること。そして、使うこと。

須田 将司

46

原点にして頂点を目指す

須田 将司

46

社会に巣立った卒業生

本部からの報告

須田 将司

50

卒業祝賀会開催(大学・同窓会共催)

須田 将司

50

予告

須田 将司

50

各委員会からの報告(直近委員会より)

須田 将司

50

支部からの報告

須田 将司

50

同期会からの報告

須田 将司

50

OB会からの報告

須田 将司

50

同窓生寄稿

須田 将司

50

三人のわたし

須田 将司

50

卒業生のお宿・お店紹介「大観荘」

須田 将司

50

同窓会活動

須田 将司

50

随筆

大学卒業しての歩み  
グアテマラでの調査から

林 隆 司  
五反田 克也

CUC経営者会議

CUC経営者会議ニュース

63

教育後援会活動

千葉商科大学へのご入学に際して  
教育後援会新会員歓迎会・新入生保護者会の開催について  
チャレンジ応援奨学金給付学生の報告  
保護者寄稿

佐久間 聖  
教育後援会  
教育後援会

65

入学から二年を経ってみて  
「やってみる」精神で

西園 準子  
深水 由美子

67

CUCの教育

学生の提案が大学を動かす「キャンパス内の自動販売機から消費電力を減らす」  
— SONE (Student Organization for Natural Energy)・自然エネルギー達成学生機構)

仲野 友樹

70

ゼミ紹介

コンピュータや情報と人との関わりを探るゼミ

出水 淳

71

■ ニュース・イベント

2017年度学生募集活動と入試の振り返りについて

出水 淳

72

「学生への起業支援」と「キッズビジネスタウン<sup>®</sup>いちかわ」の運営」が

中小企業庁の「創業機運醸成賞」を受賞

出水 淳

73

「The University DINING」の設計・建築と「フォトログ in かわ」の活動が

「第11回 市川市景観賞」を受賞

出水 淳

74

「ひょうごりひょうたん島」が「学生ボランティア団体支援事業」に採択されました

第67回税理士試験「簿記論」「財務諸表論」「消費税法」に5名合格！

鈴木 春二

75

■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧

■ キャリア支援センターニュース

就活は夏休み前に終えて、あとは卒論とキャンパスライフを楽しもう！

川 瀬 功

77

■ 地域連携推進センターニュース

千葉商科大学の新たな発展を目の当たりにできた幸福

鈴木 春二

80

■ 冥利に尽きた学園生活

退任された教員より

鮎川 ゆりか

83

▼千葉商科大学創立90周年記念事業 寄付者芳名録 91 ▼第48期同窓会維持会費・華甲会費納入者一覧 94 ▼同窓会支部事務局一覧 100 ▼編集後記 102

# 祝 創立90周年

学園の木々に新緑が目立つようになった。青空に綿を伸ばしたような雲が所々に浮かんでいる。晴天に恵まれたキャンパスは今日も新入生で賑わっている。見慣れた光景であるが、風情がありがたいものである。

母校は今年創立90周年を迎えた。昭和3年4月、当時の東京府下西巢鴨町に巢鴨高等商業学校を開設後、巢鴨経済専門学校、千葉商科大学と校名を変更、国府台に学枝位置を変更したのは昭和21年8月と記されている(大学略年譜)。歴史の大半はこの国府台で刻まれたことになる。

一貫した実学尊重の教育により、多くの分野での専門家を輩出していることは世に知られているところである。本誌21号から毎号、特集「千葉商科大学創立90周年に向けて」に諸先輩が学生時代の思い出などを執筆しておられるが当時の先生、学生気質、環境、部活などさまざま

## 勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長  
(昭34商)



なことを思い起こすことができ、実に感慨深いものがある。母校は現在、5学部を擁する社会科学系の総合大学として大きな躍進をしている。創立90周年を契機に、100周年に向けて「高い倫理観を持つ『治道家』を育てる」をスローガンに、「高德の実業人を創る」を合言葉とし、更に「質の高い教育」の提供を目指している。こんなに恵まれた教育環境の中で、学生の皆さんは勉学に部活に一層の意欲が増すことであろう。新入生も大学で自分は何をしたいのかを早く決めることをお勧めしたい。大学の躍進と共に同窓会も多くの人に参加していただき、交流を深め人脈を広げ互いに自己実現を図り、更に基盤を強化し母校に貢献できるよう大いなる飛躍を目指したい。

創立90周年を心よりお祝いし、オール千葉商大全員でこの喜びを味わいたい。

# 私は、やってみた。 学生生活での無限の可能性

須田 将司

UCC上島珈琲株式会社勤務  
平成30年3月 商経学部商学科卒

千葉商科大学のキャッチフレーズ、「やってみる、という学び方。」

私はこれを私なりに体現できたのではないかと思っています。

ゼミ旅行をはじめ瑞穂祭やスポー

ツ大会に参加した

近藤ゼミでの活動

1限や5限、時には土曜日にも授業があった教職課程、

第15回の代表を務めた「キッズビジネスタウン<sup>®</sup>いちかわ」では、授業だけでは絶対に行得ることのできない貴重な体験をすることができました。また、入学直後から所属した学長ゼミでは英語を学び、ベトナムと台湾で行われたGPAAC（アジア学生交流会議）に参加しました。足がガクガク震えながら、アジアの天才たちの前でプレゼンをした記憶は今でも

鮮明に覚えています。

元々好奇心旺盛な私

は、やりたいと思った

ことは積極的に手を挙げ

行動に移してきました。

光栄なことに、この

大学は私たち学生を

温かくサポートしてくれる環境がたくさんありました。

大学で学んできた、体験してきた

一つひとつが今の私をつくっている

のです。だからこそ、皆さんにも色

んなことにチャレンジしてみたいと思

います。やってみて、自分に

合わないと思ったらやめればいい。

最初から諦めずにはやってみる

こと、とても大切なことだと思います。

一方で、何かを続けることも重

要だと考えています。矛盾している

と思われるかもしれませんが、そう

ではありません。4年半続けた焼肉

屋でのアルバイト、小学生の頃から

現在も続けている野球、自分の中で

夢中になれることはとことんやり続

ける。続けてきたからこそ見える景

色もあるのだと感じています。

皆さんが卒業するときにやり残し

たと思うことが無いように存分に学

生生活を謳歌してください。

この大学は、私にとってのアナザー

スカイ。



## 変わった大学

高校の先生に商大の卒業生が多

かったことや、兄弟が千葉県内に居たことから両親にも勧められ興味を持ったことがきっかけで商大に入學しました。初めての地元外での生活や一人暮らしにワクワクしながらも、1か月経つとただ学校とアパートの往復を繰り返すようになっていきました。このままではいけないと思い、アルバイトやサークル活動に徐々に参加するようになってからも、期待していた生活とかけ離れた現実にごくんとしていました。2年間この調子の生活が続き、「いい加減な自分らしい」と退屈な大学生活を受け入れ始めるようになった私の転機は学部

### 繫孝明

八戸市役所勤務  
平成30年3月 政策情報学部卒

の変化でした。

コースの統合が進み、私の一学年下の代から本格的に公務員を目指すカリキュラムが導入されました。公務員試験対策は3年次から始める学

生が多いため、私たちの代も間に合う状況でありましたが当初は乗り気になれませんでした。公務員試験は費用対効果が悪く、長期間の勝負となるうえ、非常にシビアな結果も伴うというリスクがあったためです。そんな中、公務員担当の淵元先生にお誘いを頂き、重い腰を上げたのが3年次の5月頃でした。

そこからは孤独な闘いの日々が続きました。時折、公務員を目指す学

生や指導教員と近況報告を行いながらも、勉強に関しては基本的に自分で計画を立て実行しなければいけませんでした。高校、大学とろくに受験勉強をしてこなかった私にとって容易なことではありませんでした、これも今までの戒めだと思い励み、何とか第一志望に合格することができました。

たまたま上京し、たまたま商大を選び、たまたま政策情報学部に入り、思えばふとした偶然の連続で今の自分がいます。それでも4年間応援してくれた両親、私を導いてくれたゼミの権先生、公務員担当の淵元先生、大学生活を共に過ごした友人、全ての人の支えがあつて無事大学生活を終えることができました。商大での生活は全て偶然のようで、全て必然のことに感じています。

## 考えること。そして、使うこと。

### 渡辺 祐太

株式会社北越銀行勤務  
平成30年3月サービス創造学部卒

今、こうして4年間を振り返ってみると、この4年間で学んだこと、経験したことは非常に多かったと感じています。

大学生活の中で一番の収穫は、様々な人との出会いです。なかでもサービス創造学部は、多くの企業と関わる機会が用意されています。私自身も、講義やゼミ活動、プロジェクト活動を通して多くの企業の方と関わり、自分の知識や考え方の幅が広がったと感じています。

特に、ゼミの指導教員との出会いは、私の大学生活をより充実したものにしてくれました。指導教員は常に「自分で考えることを大切にしな

さい」と言っており、ゼミの課題などでは、なぜその結論を出したのか自分なりに考えるようにしました。働き始めたと言われたことをやるだけではなく、自分で考えて仕事をしなければならぬ場面は多くあります。そうした場面に対応できるように、学生のうちから鍛えておくことが大切だと感じました。

また、プロジェクト活動ではプロ野球球団「千葉ロッテマリーンズ」と連携し、球団を使って、いかに大学の価値を高めていくかをテーマに学びました。そこで学んだことは、「何のためにやるのか」という目的意識を持つことです。ただ何かを企画

し、実行する、それだけでは得るものも少ないと思います。このプロジェクト活動を通じ、ゼミで学んだ「考えること」をうまく活用することで、学問から学んだこととの相乗効果が生まれ、目的意識を持って行動することができました。

大学4年間の経験は、人生の中で一生残っていくものです。4月から社会人となり、多くの人と関係を持ちながら仕事をしていきます。環境の変化に伴い、時にはうまくいかないこと、逃げ出したくなることもあるでしょう。そうしたときには原点に戻り、大学で学んだ「考えること」、「それを「使うこと」を心に刻み、今後の長い社会人生活を送っていきたいです。

## 原点にして頂点を目指す

### 川名 友貴

オリックス銀行株式会社勤務  
平成30年3月 人間社会学部卒

絶対に負けたくないと思える同級生がいました。

大学に入るまでは野球一筋の人生、勉強は苦手で、高校のテストはいつも赤点ギリギリ、数学で0点をとったこともありました。おまけに、人付き合いと人前に立つことも苦手でした。

で変わったのは、間違いなく人間社会学部のおかげです。

そんな私が今では、卒業式で代表のスピーチを任せてもらい、ヒッチハイクで千葉から鹿児島まで行ったりしています。4年前の自分に話しても絶対

アクティブラーニングでは色んな経験をさせてもらいました。観光ガイドブック「るるぶ」の作成に始まり、JR久留里線沿線地域の町おこしなど、ここに書ききれないくらい多くの活動に参加してきました。成功と同じくらい失敗もたくさん経験して、楽しい思い出も悔しい思い出も数えきれません。

にも信じてもらえな

また、人間社会学部は私にとって、世界で一番頑張れる場所です。刺激的で楽しい授業をする個性的な先生方がいて、資格を取得すれば学生よりも喜んでくれる職員の方々がいて、

でも絶対にも信じてもらえな

部で一番の卒業生だと言ってもらえるように努力し、在学生の後輩、今後入学する後輩たちの目標となります。で、恩返しができるほど考えています。「原点にして頂点」を目指して日々精進していきます。



ここま

日々精進していきます。